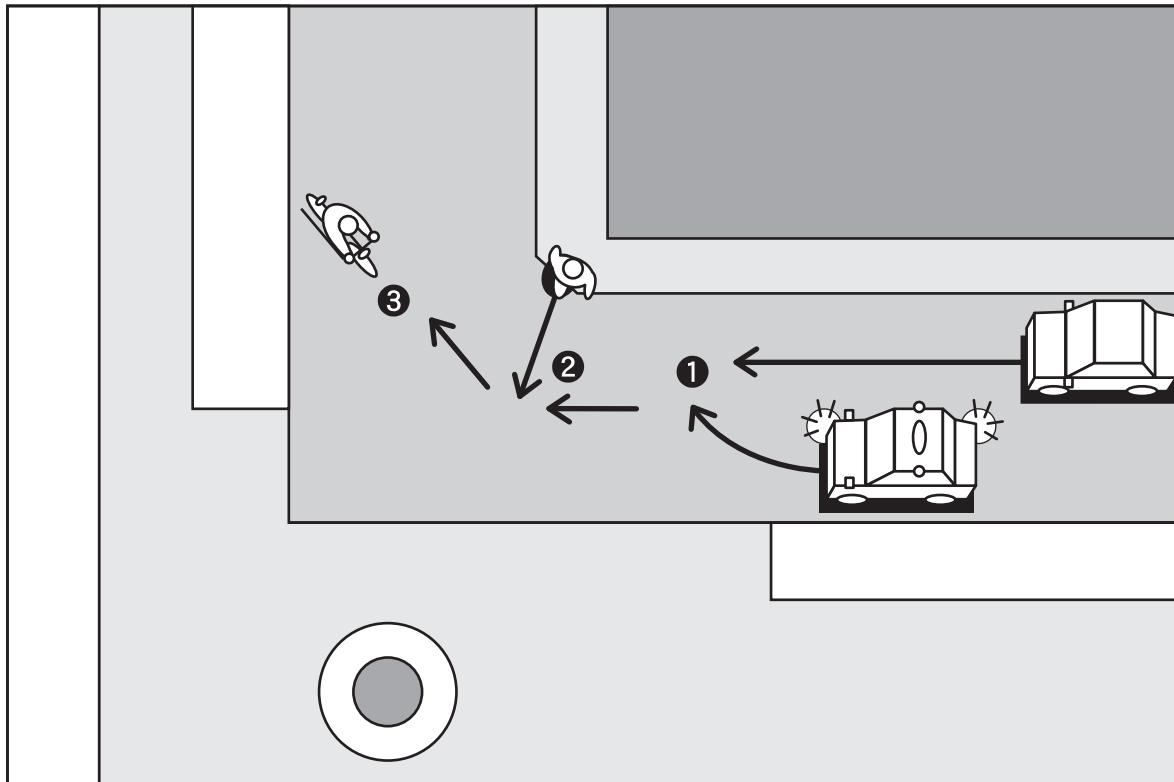


## 〔タクシー 1〕 駅前のタクシー乗り場からの発進



### 1 . 主な危険要因の例

- ① 後続車が接近しており、このまま発進して右に進路変更すると衝突する危険がある。
- ② 前方右側に歩行者が見えるが、この歩行者が横断してくるとはねる危険がある。
- ③ 前方から自転車が接近しており、このまま進行すると衝突する危険がある。

### 2 . 安全運転の例

発進していくときは、必ず後方の状況を確認し、後続車が接近しているときは後続車が通過するのを待つ。

歩行者や自転車の動きにも目を配り、横断しそうな歩行者や自転車があるときは先に横断させる。

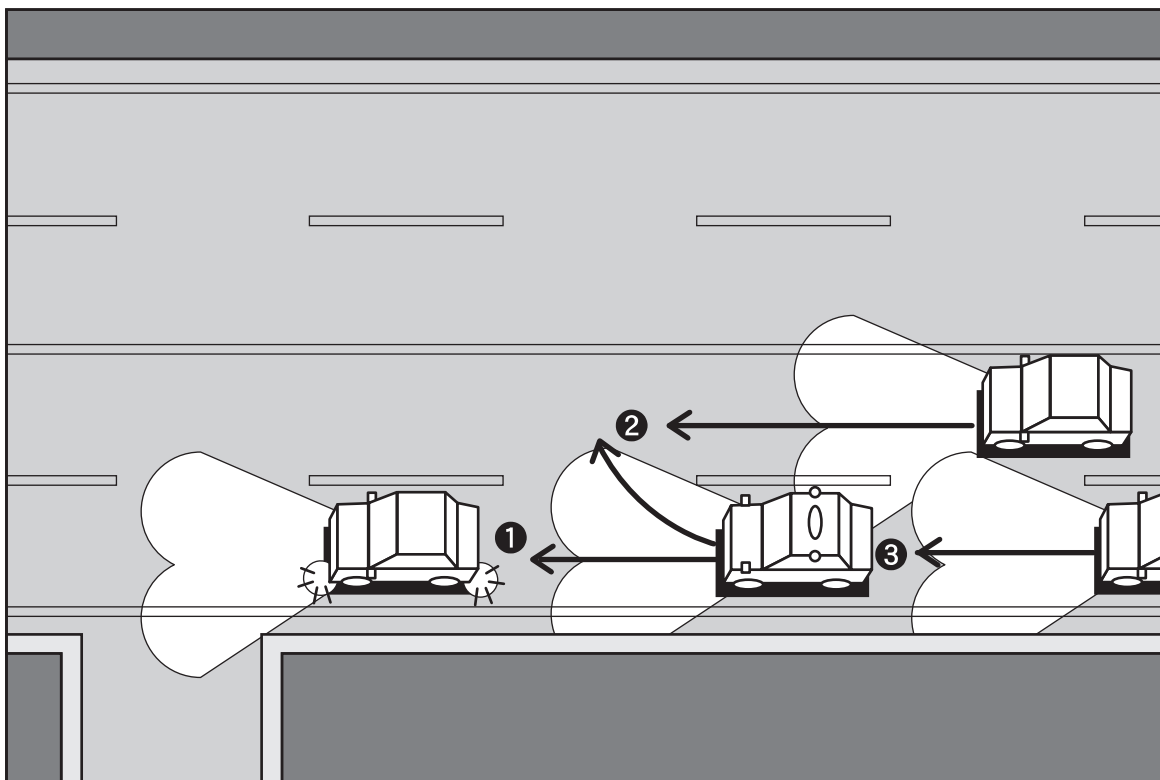
駅前は車や自転車、歩行者が交錯する場所なので、スピードを落として進行する。

### 3 . 乗務員指導のポイント

タクシーの乗務員は、乗客を乗せるとすぐに発進する傾向があるので、発進する前に一呼吸置いて、必ず後方の状況を確認するよう指導する。

駅前のロータリーでは車だけでなく自転車や歩行者にも注意が必要だが、特に自転車の場合は逆行してくることがよくあるので、その動向に十分注意するとともに、スピードを落として進行するよう指導する。

## 〔タクシー 2〕 夜間の道路を走行



### 1．主な危険要因の例

- ① 左の合図を出した前車は左折するために減速や停止をすることが予測されるが、それに気付くのが遅れると追突する危険がある。
- ② 停止をした前車との追突を避けるためや、前車を追い越そうとして右側車線に進路変更をすると後続車と衝突する。
- ③ 後続車があるので、前車との追突を避けるために急減速や急停止をすると追突される危険がある。

### 2．安全運転の例

前車は、いつ減速や停止をするかわからないので、常に車間距離を保持して走行する。

進路変更をするときは、必ず後続車の有無を確認し、後続車が接近しているときは進路変更をしない。

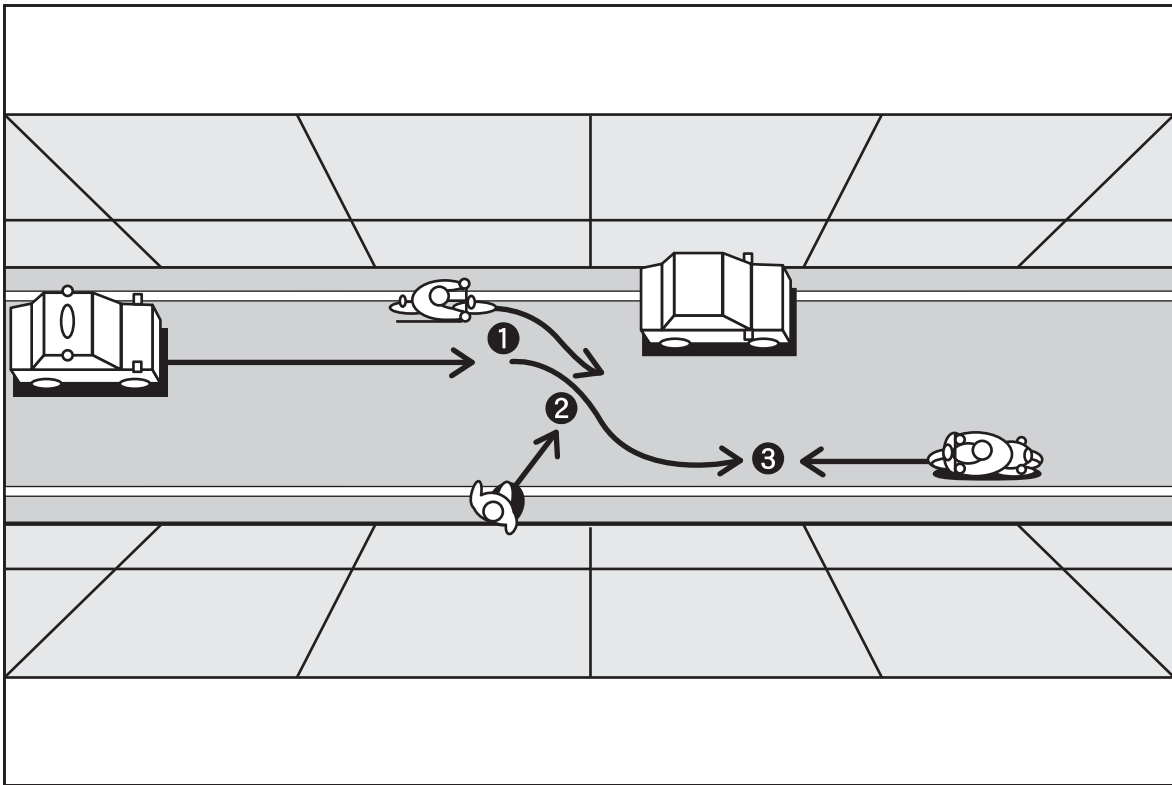
急減速や急停止は後続車に追突される危険があるので、徐々に速度を落とすようにする。

### 3．乗務員指導のポイント

前車が左折の合図を出しているときは、前車が減速したり停止することを予測して走行するよう指導する。

強引な進路変更が事故の大きな要因の一つとなっているので、後続車が接近しているときは進路変更をしないことを徹底させる。

## [ タクシー 3 ] 狭い道路の走行



### 1 . 主な危険要因の例

- ① 駐車車両に進路を塞がれた自転車が右に進路を変更してくることが予測されるので、このまま進行すると自転車と衝突する危険がある。
- ② 前方右側に歩行者が見えるが、この歩行者が横断してくるとはねる危険がある。
- ③ 前方から二輪車が接近しており、このまま進行すると衝突する危険がある。

### 2 . 安全運転の例

駐車車両などで進路を塞がれた自転車は、後方の確認をしないまま進路を変更することがよくあるので、無理に自転車を追い越そうとはせず、自転車の動向に注意して進行する。

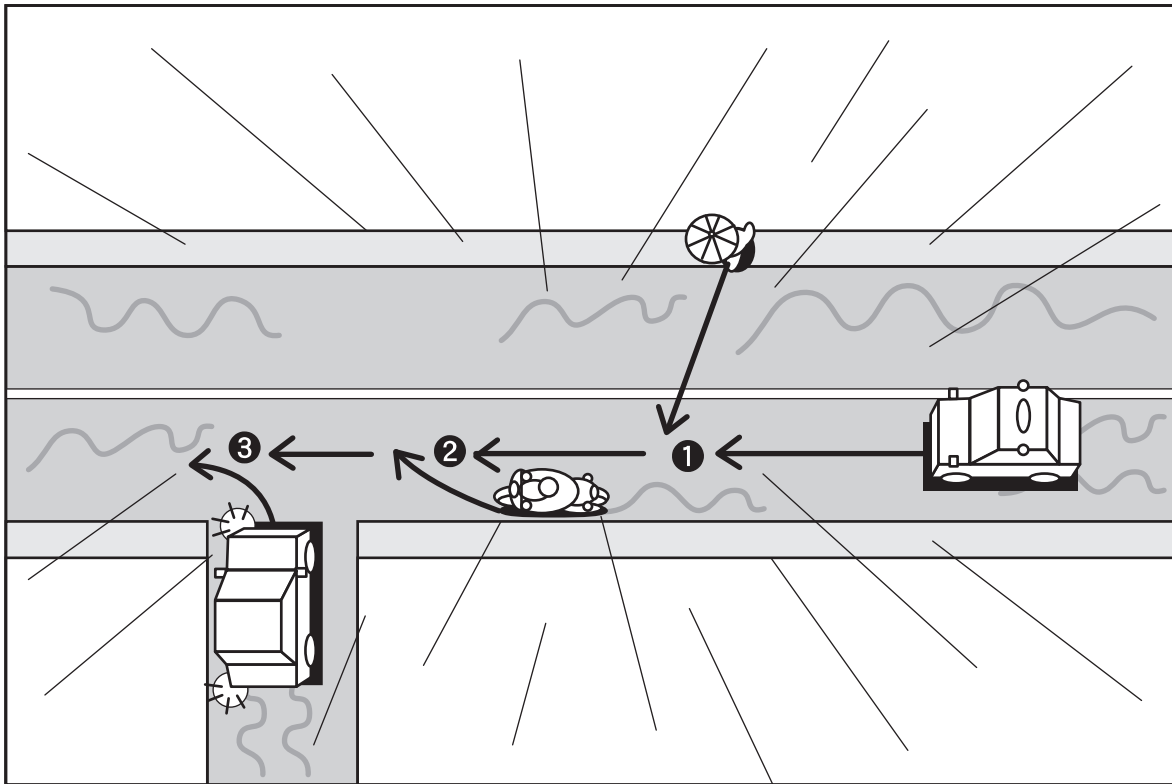
商店街などの狭い道路では、車が接近していても横断してくる歩行者が少ないので、歩行者の動きによく目を配るとともに、あらかじめスピードを落として走行する。

### 3 . 乗務員指導のポイント

センターラインのない商店街などの狭い道路では、主役は歩行者や自転車であり、そうした道路では車に注意を払わずに横断する歩行者や、進路を変える自転車も多いことを認識させ、あらかじめスピードを落として走行するよう指導する。

特に自転車は、後方を確認せずに進路変更することがよくあるので、進路変更が予測されるときは、先に行かせるよう指導する。

## 〔タクシー４〕雨天時の走行



### 1．主な危険要因の例

- ① 傘をさしているために視界が悪い歩行者が、車の接近に気付かずに道路を横断してくるとはねる危険がある。
- ② 前方左側の二輪車が脇道から出ようとしている車を避けるために、右側に進路変更してくると衝突する危険がある。
- ③ 脇道から左折して出ようとしている車が、二輪車の通過後に左折してくると衝突する危険がある。

### 2．安全運転の例

傘をさした歩行者は視界が悪く、車の接近に気付かずに横断してくることがあるので、歩行者の動向に十分注意する。

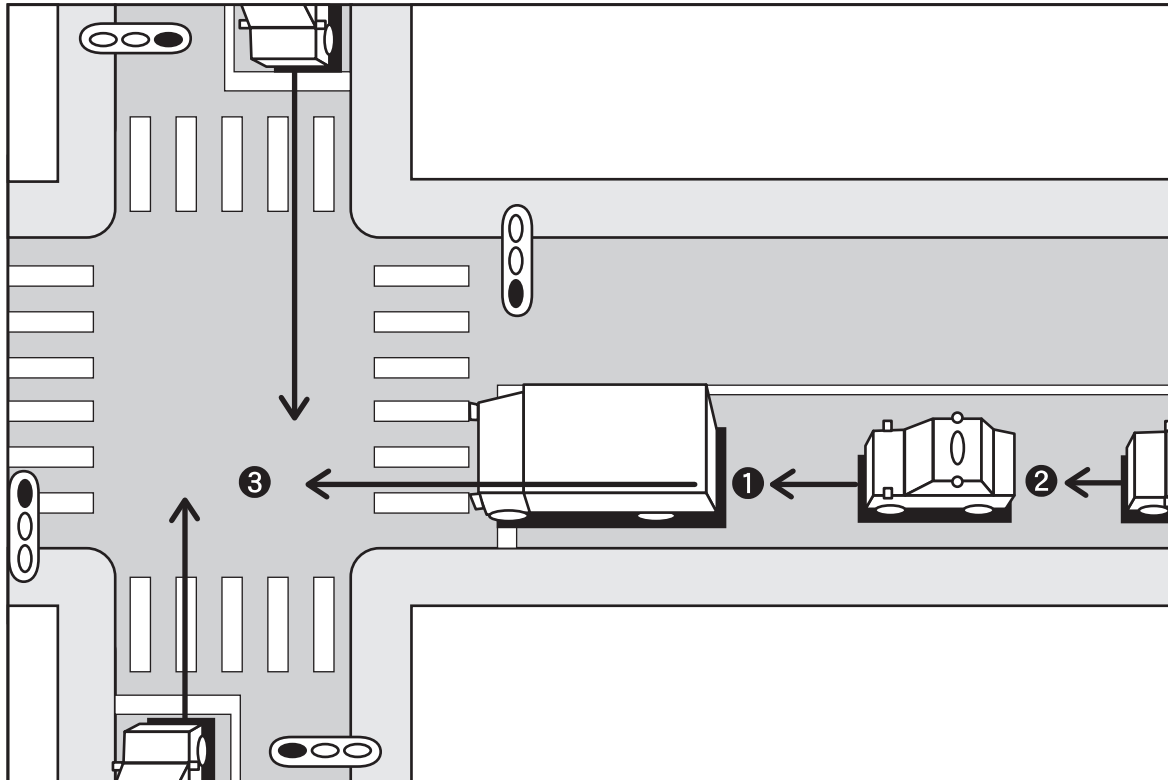
雨にさらされて走行する二輪車は、早く目的地に到着しようとして先を急ぎがちで、後方の確認をせずに進路変更することがあるので、進路変更が予測されるときは追越しや追い抜きをしない。

### 3．乗務員指導のポイント

雨天時は車だけでなく歩行者の視界も悪くなり、車が接近していてもそれに気づかず横断してくることがあるので、歩行者の動向に十分注意するよう指導する。

雨で濡れた路面は滑りやすくスリップしやすいことや、ブレーキをかけたときの制動距離も長くなり追突事故が発生しやすいので、乾いた路面のときよりも長めの車間距離をとるよう指導する。

## 〔タクシー５〕信号機のある交差点に接近



### 1．主な危険要因の例

- ① 前方の交差点の信号が黄や赤に変わって、前車が急停止すると追突する危険がある。
- ② 急停止した前車との追突を避けるために自車が急停止すると、後続車に追突される危険がある。
- ③ 前車に追従して交差点に進出したときに信号が赤に変わっていた場合には、交差道路から発進した車と衝突する危険がある。

### 2．安全運転の例

大型車の後方を追従して走行すると、前方の視界が遮られて信号が見えず赤信号で交差点に進出する危険があるので、できるだけ車間距離をとって早めに信号が確認できる位置で走行する。

大型車に追従すると前方の死角が大きくなるので、できるだけ大型車の後方を追従しないようにする。

### 3．乗務員指導のポイント

前方の視界を確保することは安全運転の基本だが、大型車の後方を追従すると前方の視界が遮られ、次のような危険が生じることを理解させる。

- ・前方の状況が把握できないので、前車の減速や停止の予測ができない。
- ・信号の発見が遅れて赤信号で交差点に進出する危険がある。

やむを得ず大型車の後方を追従するときは、車間距離を十分にとり、走行ポジションを少しずつずらすなどして、できるだけ前方の視界が確保できるような措置をとるよう指導する。